

本学教員執筆書籍の紹介

吉田 晃 敏 他編集

NEW MOOK 眼科 No.7 眼循環

金原出版 定価8,500円+税

石 子 智 士

1978年より15年にわたって刊行された眼科 Mook は、日本における代表的な眼科出版物として我が国の眼科医療の発展に貢献してきた。この Mook シリーズの大きな特徴は、あるテーマについてそれぞれのエキスパートが自分の専門領域を担当し、それらを体系だててアカデミックにまとめてあるという点である。近年の眼科領域における研究の発展や治療法の開発にはめざましいものがあり、新たなスタンダードとなる書籍が必要となり、この Mook シリーズを新しく立ち上げることとなった。その7番目にあたる本書「眼循環」は、旭川医大吉田教授を編集代表として、解剖・生理から測定法の解説、薬理作用、そして緑内障、高血圧、糖尿病といった疾患と眼循環との関わりについて、のべ34名の執筆者によって大変丁寧に説明されている。なお旭川医大からは本書の執筆に当たって編集主幹の吉田教授はじめ5名がそれぞれ自分の専門分野について担当している。

眼循環の解剖に関しては、豊富な電検写真を使ってわかりやすく説明がなされている。循環生理に関しては、網膜と脈絡膜で全く異なる特徴を有していることが理解できる。特に網膜は脳・冠・腎などの主要臓器の微小循環と同じく、血流を一定に保つ調節機構、いわゆるオートレギュレーション機構を有しており、それはいくつかの重要な循環調節メカニズムが合目的に協調して働くことにより成り立っていることが理解できる。眼循環研究の一番の特徴としては、その評価法

に未だゴールドスタンダードがないということである。これまでいくつかの測定法が開発・臨床応用されてきたが、それぞれに長所短所があり、それを正しく理解することが重要である。本書では、それぞれの測定法についてエキスパートがわかりやすく解説しており理解しやすい構成となっている。これほど丁寧かつ体系だてて測定法を説明した書物は他にはない。さらにここ10年ほどでめざましく解明されてきた血管作動性物質の眼循環への影響に関しても、一酸化窒素、エンドセリン、レニン-アンジオテンシン系などについてわかりやすくかつ詳しく説明されている。そして最後に、眼循環動態の異常がその病態の発症・進展に関与しているとされる眼疾患、すなわち緑内障、新生血管黄斑症、網膜静脈閉塞、糖尿病網膜症、高血圧について、それぞれの専門家が日常臨床に役立つよう工夫して説明されている。これを読むと、眼循環という新たな側面から病態把握を行うことは、研究のみならず日常臨床でも非常に重要であることが理解できる。

本書は眼循環研究を志す研究者にとってのバイブルとなることはもちろん、臨床家にとっても日常臨床のスキルアップに役立つヒントがたくさん含まれている。また、網膜血管は全身で唯一非侵襲的に観察可能な細動脈であり、眼科のみならず他の臓器の微小循環研究者も一読する価値のある内容になっていると思われる。

(眼科学講座)